

困難を発展の好機に

江藤 芳浩

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

この巻頭言を執筆している8月6日現在、オリンピック日本選手団が獲得したメダル数が49個となり、前回のリオデジャネイロ大会での41個をすでに上回り史上最多となりました。オリンピック開催前はさまざまな意見が交差しましたが、始まってしまえばテレビや新聞・ラジオもオリンピックの話題が絶えず、多くの国民がテレビの前で応援し、日本選手の活躍に一喜一憂しているのではないのでしょうか。

その一方、新型コロナウイルス感染拡大は、インドから広がった新しい変異型ウイルス、いわゆるデルタ変異ウイルスが大会期間中も猛威を振るい、東京都の感染者は5千人を超え、今日現在、緊急事態宣言が6都府県に、まん延防止等重点措置が13道府県に発出されました。当初、順調に進んでいたワクチン接種数はやや低下傾向で、日本経済新聞によると全国の接種数は7月6日の147.2万回をピークに減少しています。また8月4日時点で1回接種者は国民全体の45.2%、2回接種を終えた割合は32.1%となっており、2回接種が完了していない国民はまだ8,500万人ほどいることになります。集団免疫獲得が国民の60%ほどで可能であるとすれば、現状の接種数を維持することによってゴールは見えそうですが、デルタ変異ウイルスの基本再生産数は、従来型の新型コロナウイルスが1.4~3.5であるのに対して5~9.5と水痘並みに高いことや、ワクチン接種完了者であってもデルタ変異ウイルスに感染した場合は、他者に拡散させるリスクがあるという報告などから、より短期間に感染が拡大することが考えられ、安心できない状況が続くことになりそうです。



本会としては、昨年8月に講習会などの開催に向けた「会場型講習会開催ガイドライン（新型コロナウイルス感染対策）」を作成し、ガイドラインに即してJART事業の開催判断をしています。ウイルスの変異や刻々と変わる感染状況、国の宣言や措置、各イベント内容などからガイドライン通りに判断できない場合があります。特に、各種試験や実技講習などについては難しい判断が求められ、適宜、最適な方法を検討しながら進めていくことにご理解を頂きたいと思います。なお、イベント開催に当たっては、本会の医療安全対策委員会がまとめた「診療放射線分野における感染症対策ガイドライン」が本会ホームページに掲載されており、会誌にも2021年7月号から連載されていますのでご確認ください。

10月から開始する本会主催の「令和3年厚生労働省告示第273号研修（告示研修）」も、新型コロナウイルス感染症の影響が心配されます。実技講習を行うためのファシリテーターの養成講習を全国8地域で9月に実施する予定ですが、昨今の急激な感染拡大により、その開催が難しい地域もあるかと思えます。それに伴い、地域によっては実技講習の開始時期が遅延することも考えられますが、会員諸氏におかれましては、実技講習が開催されればいつでも受講できるよう、まずは基礎講習（e-ラーニング）の受講を始めてくださいますようお願い致します。

コロナ禍により人との接触が制限されたことによって、さまざまな分野でWebの活用が普及しました。本会においてもWeb会議システムを学術イベントや各種会議、事務局業務における有益なツールとして活用しています。今後はさらに、実地開催を条件としている事業のWeb化の可能性についても、各担当部門で検討が進められるのではないかと思います。こうしたWebサービスを利用する環境を整えたことや、Webサービスを適切に利用することによって会員利益と経費削減の両立をもたらすことができたことについては、コロナ禍における不幸中の幸いであるといえます。パナソニック創業者である松下幸之助氏の「困難こそ発展の好機」という言葉の通り、本会は今後も新型コロナウイルス感染症に適切に対応しながら、事業の合理化を進め、さらに発展の好機となるよう活動してまいります。今後とも、本会事業へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。